

府中ホスピスを考える会通信 第1号 03/10/26



聖路加国際病院理事長 日野原 重明先生よりのメッセージ

府中在住の市村晴子さんの呼びかけで、府中はなみずきの会(会長:田中太さん)が発足したのは10年前のことでした。市村さんが(財)ライフプランニングセンター企画のホスピスが神奈川県平塚市郊外に建った頃から、そのボランティアとして協力されてこられたことから、はなみずきの会はこのホスピスを応援することになりました。

そのうちに、府中にもホスピスがほしいとの案がもち上がり、「府中ホスピスを考える会」が発足しました。地元の医師会や地域の団体に呼びかけ地域住民の力でホスピスを建てる案が考えられることになり、私も全面的に応援することになりました。皆様のご協力を期待します。

「府中ホスピスを考える会」の設立と活動について

小西 厚子

「考える会」は、平成13年に日本初の独立型ホスピス「ピースハウス」を支援しているボランティア・グループ「府中はなみずきの会」とホスピスに関心をもつ有志が「設立準備会」を立ち上げ、正式には平成14年2月17日に設立総会を開催して発足しました。

「考える会」の目的「ホスピスについての理解を深め、終末期医療としてのホスピス(在宅および施設)の普及を目指す」(会則第一条)のために、また私たちが生活するホームタウンにホスピスができるよう会員の皆様と活動するつもりです。

「ホスピスの創設は、広い意味で私たち自身の地域づくりにつながっています。お互いがどう生きて、生き終えるのかについての、納得し合える仕組みを考えるとところから始まります。」(「考える会」設立趣旨) この趣旨にご賛同する皆様の入会を歓迎します。

声

窪田ふく子

「ホスピスを考える会」の一員として、私は是非、府中市に「独立型ホスピス」が出来ることを望んでいます。ガンが進行しても、人間らしく心安らかに終焉を迎えることが出来る施設—ホスピスを希望する人々が多くなっています。国、各自治体の財政も逼迫しているなか、大変なことと存じますが、市長をはじめ議員の先生方の英知を結集させて市民と共に一日も早くホスピスの建設に向けてご尽力をいただきたいと願っております。

駒ヶ嶺泰秀

私の家内は小金井の聖ヨハネホスピスで一昨年亡くなりました。以前に家内の両親も癌で亡くなりました。岳父の臨終の場に居合わせた私は、その時癌で亡くなることの恐ろしさを知りました。家内が末期癌であることを知って岳父のような亡くなり方ではなく安らかな眠りに入るようなものでありたいと切望し、ホスピスに入院しました。接する人みんなに「ありがとう」と言い、手を合わせて57年の生涯を終えました。府中にも是非ホスピスをと願う者です。

高橋 重春

内閣の国民生活に関する世論調査によると、国民の67.2%が、日常生活に不安と悩みを感じている。特に老後の生活に大きな不安を感じている。病気についての悩みは常に脳裏に浮かんでくる。地域においても一人暮らし老人の生活の未来についても対策が案じられている。その対応は、大きな政治的課題である。

私達が目指す「ホスピス」活動の原点は、インドの聖者マザーテレサの「死の家」です。人生の終局に安心と安楽を与える施設—ホスピスの建設を、皆様の理解と協力をいただくために活動を続けています。

濱山 満子

すべての人に訪れる終末期。その大切な終末期に、旅立つ人を周りの人はどのようにサポートできるのか。また本人は、どうすれば心安らかに死をむかえられるのか、これは私の以前からの大きな関心事でした。

たまたま府中に住み始めて、「府中ホスピスを考える会」ができたことを知り、大変うれしく思い会員にさせていただきました。

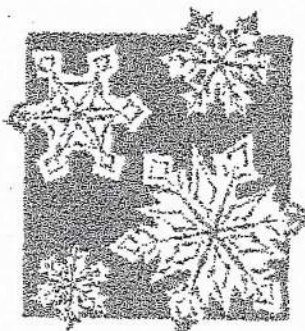
現在は、年に数回、講演会、勉強会をもち、ホスピスに関わってこられた医師、看護師ボランティアの方々からお話をうかがって勉強をしております。

これから、いっそう多くの方々へ活動の輪が広がり、浸透していくことを願っております。

村上 淳子

私は小金井市に在住しております。「府中ホスピスを考える会」がスタートしたときに入会を勧められ、多少の逡巡はあったものの結局入会させていただきました。なぜ逡巡したかという、知人で奥さんを桜町のホスピスで亡くされた方に言われたことでした。私が「府中はなみずきの会」(ホスピスを支援しているボランティアグループ)で10年ほどお手伝いをしていることを知り、「なぜ府中なのですか?小金井でボランティアをしてくださいよ」と言われたことが頭の隅にあったのです。

しかし、「考える会」の講演会のお手伝いをしていると、府中市以外の方もかなりお見えになっていることが分かりました。これからの希望としては、「府中ホスピスを考える会」を中心に、府中市だけではなく近隣の街の人たちも少しずつでも加わって、府中の皆さんのパワーと行動力・指導のもとに大きな輪になっていったらとても素晴らしいことだと感じます。



「勉強会」参加者のアンケート(平成14年4月28日)から

「勉強会」で取り上げてほしいテーマ順位5項目

- 1, ガン末期の患者を抱えている人のケアについて
- 2, ホスピスケアの現状と課題
- 3, ホスピスケアの経済的側面
- 4, 尊厳死と安楽死をめぐって
- 5, ホスピスケアと家族

アンケートによせられたご意見(抜粋)

- 20年前主人を肝臓ガンでなくしましたが、そのときホスピスという言葉さえ知らなかった。身の回りにもガンの人があり、もっと勉強したいビデオなどで拝見させてください。
- 市民にとり、大きな力になる。祖母や父をガンで亡くして、避けて通れない課題と考えます。皆さんと一緒に勉強に参加させていただきたい。
- 2年前夫を6年間の闘病の末、喪いました。この経験から自力の介助、在宅ケアにいろいろ問題を感じ、尊厳死、安楽死、という問題となります。ホスピスとはガンのみに限られているのか、痴呆の場合、精神障害者の扱いになって、生を終わる悲しさ、長期介護に関わる問題も考えるのが大切。
- 会員のなかに市議員もいるようなので市の在宅サポート体制、内容の現状、今後の課題についても聞かせてもらえたら…ホスピスだけでなく老後や障害者等を、全てを支える社会福祉も大切と思う。

発刊に際して:

現在、我が国の死因の第1位はがんであり、このうち大多数の方々が病院で亡くなっています。患者のクオリティー(生活の質)維持と向上を目指すホスピスケアが我が国では、すでに100カ所の施設が誕生していますが、全体のベット数は1882床(2002年6月現在)と、まだまだ十分ではありません。

”ホスピスケア”は、主に治ることが見込めなくなった患者が、病人としてでなく、その人らしく生活できるよう、支えることをめざします。

その中心にあるのが、苦痛の緩和で、体の痛みばかりでなく、心の痛みを含めて、その人全体をケアすることです。

患者と家族のニーズを大切に心暖かいケアを受けながら大切な時間を過ごすホスピスや、緩和ケア病院を、もっと私たちの身近に、増やしてゆくことができるかは、私たちひとり1人の働きかけにかかってきます。

会員には、親族にガンに罹られている方もあり、「実際にホスピス病院に入るにはどのようにすればよいか」という問題に非常に興味を持っていらっしゃる方もいます。

その種をまいて、発展させたいとの思いで、府中ホスピスを考える会通信を発刊することにいたしました。

府中ホスピスを考える会講座 実施歴

回	日付	テーマ	講師
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院理事長 日野原重明
1	02/02/17	ホスピスの体験から	ピースハウス病院ナース 杉本真由美
2	02/04/28	在宅ホスピスケアについて	ピースハウス病院ナース 杉本真由美
3	02/07/14	緩和ケアで使われる薬について	薬剤師(元ピースハウス病院職員) 玉井 照枝
4	02/11/24	心と身体の痛みを癒すには	くらしき作陽大学教授 篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長 平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長 山崎 章郎
7	03/08/03	ヨーロッパのホスピス事情	府中ホスピスを考える会副会長 市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長 川越 厚

会計より会員の皆様へのお願い

本年度も後半になりました。平成15年度の会費未納の方は、お払込をどうぞよろしくお願い致します。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記

初冬の足音が駆け足で近づいて来ました。会員の皆様、お元気ですか。会が発足して2年、現在まで行った「勉強会」はいかがでしたか。「府中ホスピスを考える会通信」第1号発行にこぎつけました。会に対してのご意見、勉強会へのご希望、なんでもご投稿ください。皆様のご投稿をお待ちしています。

「通信」編集委員 荒川京子、小西厚子、滝山満子、村上淳子、和田総一郎

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-351-4583